

令和 6 年度 学校推薦型 本試験問題

出題意図・模範解答・採点基準

問題1 アドミッションポリシーとの関連

- ①. 専門職に関心を持ち、必要な科学的知識・技術の習得および探求に意欲のある者
- 2. 高い専門的知識・技能の習得に必要な基礎的学力を備えている者
- 3. 他者とよい人間関係を作るためのコミュニケーション能力を備えている者
- ④. 常に社会の変化に関心を持ち、専門職として社会に貢献する意欲のある者
- 5. 多様な価値観を尊重できる者
- ⑥. 論理的に思考し表現・行動できる者

作題意図

社会で話題になっていることや医療に関わることを問うことで、社会への興味や専門職としての意欲があるか確認する。また、専門職は向上心を持ち続けることは重要であり、その考えを論理的に記述することができるかを問う。

着眼点

- 1) 多角的に捉えられることができるか。
- 2) 根拠性のある情報をもとに自分の考えを明確に述べられているか
- 3) 自分の考えを論理的に述べることができるか。

採点基準案 60 点

- 1) 課題の理解（正しく理解しているか、理由と方法を適切に述べているか）：15 点
- 2) 説得力（複数の視点から意見を述べているか、読み手を納得させる論述ができているか）：25 点
- 3) 構成力（筋道を立てて論理的に説明しているか）：10 点
- 4) 文章力（文章の体裁、誤字脱字）：10 点

* 詳細はループリックを参照

問1

	25点	20点	15点	10点	5点	3点	0点
理解力			内容を理解し要因や活躍する方法について自分の意見を的確に書けている	内容を理解できているが要因や活躍方法にの記載が不十分	問題文の理解が不十分であり内容が伝わりにくい		内容を理解できないため不適切な内容となっている
説得力	複数の視点から具体的に自分の意見が述べられている。	複数の視点から意見を述べているが具体性が乏しい	ひとつの側面から具体的に意見が述べられている	ひとつの側面から意見が述べられているが具体性が乏しい	具体性はないが理解は得られる意見となっている		内容が不適切
構成力				序論・本論・結論を意識して論述をすることができているか	段落ごとの内容にまとまりがあるが、文書のつながりが不十分	段落ごとの内容にまとまりがなく、読みにくい	意見にまとまりがない
文章力				簡潔で分かりやすい文章となっており誤字脱字が少ない	簡潔で分かりやすい文章となっているが、誤字脱字が多い	文書が長く誤字脱字が多い	使用している用語が稚拙

受験番号	
氏名	

1

日本の育成システムは、練習量や精神の鍛錬を重要視してきた。その結果、若年者の故障などにより必ずしも競技力の向上に結び付くわけではなかった。しかし、近年では育成システムの変革やスポーツ医学が発展し、幼少期から怪我の予防に対する認識が選手や指導者の中で広がっている。また、施設環境が整備されてきたことや、部活動レベルからのトレーナーの帯同など環境面が整う学校が多くなっている。施設面の改善はより効率的で合理的な練習が行え、トレーナーの帯同により怪我の予防や選手のケアが充実することでの競技力向上に結びついている。さらに、技術面の向上や環境面の改善だけでなく、早期からのメンタルケアなど精神面にも配慮することが優秀な選手を育成することの要因として考えられる。

さらなる競技力向上には選手の努力は当然ではあるが、一流選手となれば既にただならぬ努力を重ねてきた結果である。よって、科学的な根拠を用いた練習を取り入れることが欠かせない。スポーツ医科学の分野では躍進的な進歩が認められ、選手の競技スキルを詳細に分析することが可能となっている。このことは、選手の弱点を洗い出す事や怪我の予防に結び付く。また、選手が使用する道具は成績に影響を及ぼすため、スポーツ産業の成長も重要である。このように、さらなる競技力の向上には、選手を中心に様々な分野が繋がりやすい社会であることが重要である。(584字)

*

問題2 アドミッションポリシーとの関連

1. 専門職に関心を持ち、必要な科学的知識・技術の習得および探求に意欲のある者
- ② 高い専門的知識・技能の習得に必要な基礎的学力を備えている者
3. 他者とよい人間関係を作るためのコミュニケーション能力を備えている者
- ④ 常に社会の変化に関心を持ち、専門職として社会に貢献する意欲のある者
5. 多様な価値観を尊重できる者
- ⑥ 論理的に思考し表現・行動できる者

作題意図

保健医療の専門職者として社会に存在する事実関係を分析して記述する能力を問う。また、対話文を通じて自己の意見との遠近を想起したうえで、自分自身の立場や主張を根拠をもって述べる能力を問う。

着眼点

- 1) 目的や事実関係、主張などを読者に理解できる形式で記述することができるか。
- 2) 事実関係の記述が的確であるか
- 3) 事実を根拠とした主張など、論理的な記述ができるか

採点基準案 80 点

論理的記述・・・20 点

理解力・思考力・説得力・・・36 点

文章表現力・・・24 点

* 別に示すルーブリックの基準を用いる。

問 2	10 点	8 点	6 点	3 点	0 点	計
論理的記述	レポートの目的が他者に理解可能な表現で書かれている		目的が不明瞭ながら書かれている。目的に関する文章が主語などの面で誤解を招かない記述である。	目的が不明瞭ながら書かれている。ただし、目的に関する文章が主述の関係で理解しがたい。	レポートの目的が書かれていない。また、関連する動機も書かれていない。	/10
	段落ごとに意味のまとまりがあり、意味の変化が接続詞などで記されている		段落ごとに意味のまとまりがあるが、接続詞が欠けていて読み取りにくい	意味のまとまりが段落とは異なる区切りで存在する	意味のまとまりがない	/10
理解力 思考力 説得力		資料をもとに読み取れる事実が書かれており、かつ的確に表現できている。	資料をもとに読み取れる事実が書かれているが、表現が不十分。	資料をもとに読み取れる事実が書かれているが、記法に誤りがあり解釈の成語が判断できない。	グラフから読み取れる事実が書かれているが、解釈が間違っている。	/8
	グラフから読み取れる事実と自分の意見の関連性が明確に書かれている。		グラフから読み取れる事実と自分の意見の関連性が不明確。 善意に読めば理解できる	グラフから読み取れる事実と自分の意見の関連性が不明確で、善意に読んでも読み取りにくい。	グラフから読み取れる事実と自分の意見は書かれているが、関連性はない。	/10
	資料の特徴を捉え、具体性が高い意見を述べている。		資料の特徴を捉えているか、具体性が高い意見である。	具体性が乏しい意見である。	資料の特徴をふまえず、具体性もない意見である。	/10
		全体として一つの結論になっており、一貫性がある。			全体として一つの結論になっておらず、一貫性がない。	/8
文章表現			漢字や仮名遣い、句読点等のミスがない。	漢字や仮名遣い、句読点等のミスが1-2カ所。	漢字や仮名遣い、句読点等のミスが3カ所以上。	/6
			簡潔かつわかりやすい文章で書かれている。	一つの文章が長い、または主語と述語の対応が不明確で、読みづらい。	文章が読みづらく、何度も読み直す必要がある。	/6
			序論-本論-結論を意識して書いている様子が、文章構造からうかがえる。	序論-本論-結論を意識して書いている様子はあるが、文章構造ではうかがえない箇所が多くある。	序論-本論-結論が不明確。	/6
			高校生として適切な言葉・表現を用いている。		用語の使い方が稚拙である。	/6
計						/80

- ☐ 字数が 800 文字を超えるもの、または文章が 400 文字以下かつ文章が途中で途切れているもの(評価基準に照らすことができないもの)→ 0 点
☐ 半分以上は読むことができない著しく雑な文字であるもの → 0 点

受 験 番 号	
氏 名	

2

(横書き)

このレポートでは、山形県が行っている県民健康・栄養調査の結果のうち運動習慣の状況に関するデータを分析するとともに、運動習慣者の増加にむけた提案をおこなう。

まず、山形県民の運動習慣の状況は平成 11 年から令和 4 年までの 23 年間のあいだに改善している。平成 11 年には 21.8%であった男性の運動習慣者は令和 4 年には 45.6%と 2 倍以上の割合になった。女性についても 16.8%であったのが 34.7%となっている。男性、女性とも運動習慣者の割合は平成 16 年以降で増加傾向にある。また、年齢別に運動習慣者の割合をみると、男女とも 65 歳以上の方々の方が運動習慣者の割合が高く、男性では 14%、女性では 18%ほどの運動習慣者の差がある。

以上の点を踏まえて、私は女性の運動習慣者の増加を目指す必要があると考えた。なぜなら、女性の運動習慣者は男性に比べて少なく、特に 30 歳代の女性では運動習慣者は 21.9%とすべての年代・性別において最低の割合となっている。30 歳代の女性の多くは仕事や子育てなどによって自分の時間がとりにくい状況にあると思われるため、運動習慣者の増加のためには自由になる時間が増えるような働きかけが必要である。

そこで私は、「自分の時間をもとう・もたせようキャンペーン」などの名称で大人が自分の時間を週 3 回 30 分以上もとうという主旨のキャンペーンを行うことを提案する。週 2 回 30 分の運動を行うためには自分の時間が同じかそれ以上必要という意味である。そこで、運動をしようさせよう、メッセージよりも価値観が広くて受け入れられやすい、自分のための時間を持とうもたせよう、という視点で地域住民に働きかける。これならば、様々な理由で時間に余裕がない女性が自分の時間をもとうという意識が芽生えやすくなり、周囲の家族や職場も協力しやすくなり、運動習慣の向上が期待できると考える。

(780 字)

*

問題3 出題意図・配点 60 点

アドミッションポリシーとの関連

1. 専門職に関心を持ち、必要な科学的知識・技術の習得及び探求に意欲のある者
- ②. 高い専門的知識・技術の習得に必要な基礎的学力を備えている者
2. 他者とよい人間関係を作るためのコミュニケーション能力を備えている者
- ④. 常に社会の変化に関心を持ち、専門職として社会に貢献する意欲のある者
5. 多様な価値観を尊重できる者
- ⑥. 論理的に思考し表現・行動できる者

出題意図

本学に入学し卒業するまで、学習した内容を理解し、技術を習得するには基礎的学力が不可欠です。本問題では一般国民に向けて書かれた新聞の論説を読んで、理解できるか否か、すなわち高等教育まで積み上げられた読解力をみていきます（アドミッションポリシー②）。

本学の意義は専門性の高い医療従事者・研究者を育てるところにあるわけですが、一方で常に社会が抱える問題をしっかりと把握し、そこに接点を持つことも重要と考えます（アドミッションポリシー④）。

この問題では現代の社会の中で特に「脅威」と言われるものを4点挙げて整理し、最後にこの論説の主題となるものを求めます。比喩表現に対する直接的な知識というよりも、比喩表現を必要とするような中核的テーマの理解や論理的記述に関する能力を求めます。

すなわち、多くの情報の中から真に必要なものを抽出できる力、さらにそれを要約する力をみていきたいと思っております（アドミッションポリシー⑥）。

着眼点

- ① 4つの項目（「気候変動」「核兵器」「遺伝子の改変」「人工知能（AI）」）を的確に読み取り整理して記述できる。
- ② 課題文の主題を記述できる。

問題3 採点基準							
項目	10 点	8 点	6 点	4 点	2 点	0 点	計
情報収集力	記事に書かれた情報を正確に使用している。	あいまいさはあるものの、用いた情報は 8 割程度正確である。	記事から用いた情報は、5 割程度正確である。	記事から情報を用いているが、不正確である。	記事から少し（1～2 割程度）情報を用いている。	記事から情報を用いていない。	／ 10
分析力	それぞれの項目に対しその利点と脅威を正確に分析している。	あいまいさはあるものの、記事の内容を 8 割程度正確に分析しているである。	4 つ取り上げるべき利点・脅威であるが、4 つ取り上げておらず分析の欠如がある。	利点と脅威の分析が不完全であり、あいまいな点が目立つ。	分析が不完全であり、特定の利点・脅威の中に、他の脅威の内容が入り込んでいる。	利点・脅威の判別をつけていない。	／ 10
論理的思考	生成 AI あるいは科学技術が「パンドラの箱」であることを、矛盾なく説明している。	生成 AI あるいは科学技術が「パンドラの箱」であることを、ある程度の理論を組み立てて説明している。	生成 AI あるいは科学技術が「パンドラの箱」であることを説明しているが、論理に一貫性がない。	生成 AI あるいは科学技術が「パンドラの箱」と説明しているが、多くの矛盾がある。	他の項目が「パンドラの箱」であることを、説明している。	「パンドラの箱」に対する説明がない。	／ 10
文章力	文章が起承転結などの展開のある構成で記述され、まとまりがある。誤字・脱字がない。	誤字・脱字があるものの、文章が起承転結などの展開のある構成をもって記述され、まとまりがある。	文章は書かれているが、繰り返しが多かったり、構成が拙かったりまとまりがない。	文章は書かれているが、冗長であり意味が不十分な文章が多い。主語と述語が呼応しない。	文字数はあるが誤字・脱字があり、助詞の使い方に誤りが多い。	文字数が守られていない。(500 文字以下、600 文字以上)。	／ 10
俯瞰する力	それぞれの脅威を端的に捉えて、生成 AI についての記述の配分（全体の 1/3 程度）を的確に行っている。	それぞれの脅威を端的に捉えているが、生成 AI についての記述が多すぎる（あるいは少なすぎる）	生成 AI の脅威は捉えているが、その他の項目の記述が 1/2 文字以下である。	生成 AI 以外の項目の記述が 1/3 文字以下である。	生成 AI のみでなく、ひとつの項目の記述が多く内容に偏りがみられる。	内容の偏りが著しく、問いに答えていない。	／ 10
想像力表現力	記事が意図するところを理解し、自分の考えを表現している。	記事が意図するところを理解しているが、自分の考えをまとめきれない。	記事の内容のコピーにとどまり、自身の考えが十分出ていない。	記事の内容を自分の考えのように記述している。	記事の内容に関連しない、自身の考えのみ記述している。	自身の考えが書かれていない。	／ 10

受験番号	
氏名	

3

パンドラの箱とは災いが詰まった箱であり、著者は人類存亡の脅威として「気候変動」「核兵器」「遺伝子の改変」「人工知能（AI）」の4つをあげている。

これらは人類に恵みと同時に災いをももたらす。例えばエネルギー産業の進化が気候変動をもたらし、核エネルギーは人類を絶滅させる力を持つ一方で、電力供給という役割を担う。DNAの改変は遺伝子病などの治療に役立つが、神の領域ともされる生命を人工的に作り出すことが可能である。そして生成AIは「人の思考」にとって代わることができる点が脅威である。気候変動、核兵器、遺伝子の改変は、実際に「脅威」となるには長い時間が必要である。また、これらを使うには高度な専門知識を必要とするため、一部の限られた人間しか取り扱うことができなかった。その逆に、生成AIは非常に速い速度で普及し、ごく普通の人間が日常的に使用できる。加えて、人の思考の操作が可能になるという点では、他の3つの脅威とは全く異なる。

私は、生成AIのインターネット空間の情報を収集する機能が心配である。今のIQが80か90とのことだが、人より詳しい存在となっていき人が人を信用しなくなるのではないだろうか。著者の示すパンドラの箱をあけてしまったという表現は、生成AIの発展はもはや止められないままに成長する状況であり、大量に世の中に出回ってしまうことで人に対する疑いという名の災いを指すことであると考える。(594文字)

*

問3 例2

著者は一貫して科学技術の進歩が人間のコントロールを越えてしまいかねない状況に対する危惧を述べている。著者が例示した危惧の対象は「気候変動」「核兵器」「遺伝子の改変」「人工知能（AI）」の4つであり、特に生成AIに対する問題を強調している。

気候変動や核兵器や遺伝子の改変の3種類は、人類の営みが発展したことで生じたが予期しない問題が生じるものとして紹介されている。エネルギー使用によって気候変動がおきること、原子力発電などの大規模エネルギーに用いる方法が兵器に用いられる危険があること、遺伝子改変は疾病の予防や治療だけでなく望む遺伝情報をもった生命の誕生に用いられて生命の選択が起きる可能性を指摘している。

一方で、著者の記述をまとめると、生成AIは「人の思考」を代替する点と利用者が極めて多いことを脅威と述べ、民主主義などの現代社会の根幹にかかわる問題だと述べている。これを踏まえると、生成AIを活用した情報操作によって世論に働きかけたり事実関係をゆがめたりすることが可能だという問題といえる。著者は「パンドラの箱」という例えを用いて科学技術に詳しい一部の人々が間接的に人々を支配する危険を警戒すべきと述べており、私もその考えに同意する。思考という人間の根幹にある部分を代替する場合には、一定の情報公開が必要ではないだろうか。(565文字)